



# ムツムツ とことん

大仙市立太田中学校  
令和3年8月27日  
NO. 55



うららかに たくましく ~ 耕し 萌えたち みのらせ さきみだる~

## 全力を尽くして

# 大曲仙北中学校駅伝競走大会

毎年開催されていた田沢湖駅伝競走大会ですが、昨年は、大会の数日前に各関係機関と大会実施基準に照らして開催についての協議が行われ、選手、役員、応援の方々の健康、安全・安心を第一義に、大会中止が決定しました。大会に向け一生懸命にがんばっている姿を見てきただけに悲しい気持ちになりましたし、練習の成果を発揮する場をなくした選手の心情を察すると残念の一言では片付けられない、掛ける言葉を見付けられないほどでした。また、そんな仲間を応援で後押ししようとして準備していた全校生徒にも申し訳ない気持ちになりました。

今年は…子どもたちを昨年のような気持ちにはさせたくないとの強い願いから、感染防止対策を講じ、昨日8月26日(木)に田沢湖一周駅伝競走大会(男子)、田沢湖女子駅伝競走大会開催の準備を進めてきましたが、昨年以上の新型コロナウイルス感染拡大により田沢湖畔を走ることは叶わず、場所を秋田市雄和の県営陸上競技場に移し、無観客、襷渡し無しのタイムレースとして、なんとか大会の開催に至りました。田沢湖で走ることを願ってきた子どもたちは、変更を余儀なくされ残念で仕方がない思いでしょうが、昨年の中止から今年に変更という形ででも実施できたことに感謝したいと思います。



激励会の際には「自分にコントロールできないことは一切考えない。考えても仕方がないことだから。自分にできることだけに集中するのです。君たちが集中するのは、ただひたすらに走ることに、自分の、自分たちの目標に向かって全力で走ることです。」と話しました。陸上競技場では、自分の成すべきことに集中し、自分と必死に戦っていた太中選手団の姿、積極的な走りを目にしました。そんな選手たちに大きな拍手を送りたいと思います。結果は・・・

**男子21チーム中13位(16校中10位)**

**女子18チーム中6位(16校中5位)**

と自分たちが口にしていて、男子の目標6位、女子の目標3位には届かず、悔しい思いをしたかもしれません。でも、それまでのがんばりは、自分の体力

・気力・忍耐力、苦楽をともにした仲間との絆、母校のためにとの思いなど多くの財産になったはずで。そして何より、自分自身の苦しさに負けない強さ“克己”につながっているはずで。苦しい中でも全力で練習に励んできたその姿は太田Prideの一つ『文武に全力』を体現した姿に他なりません。

サッカー大迫勇也選手の“悔しい思いの後は頑張れる”，前智弁和歌山高校野球部監督 高嶋仁氏の“人間って悔しさ覚えたら強いんですよ”の言葉の通り、悔しさを次の喜びへのバネとしてほしいと思っています。

女子は県大会出場権を獲得しました。また一つ成長できる、強くなるチャンスを得ました。県大会まで、悔しさをバネに喜びを自信にして、さらに自分に厳しく、自分を鍛え、個人の力、チーム力を高めて出場してほしいと思います。



駅伝部の全力に加え、駅伝部の帰校を出迎え、体育館で慰労し、エールを送ってくれた生徒の、仲間を思い称える気持ちと行動も、この日のうれしさを倍増させてくれる出来事でした。『仲間を応援』も太田Prideの体現です。言葉では簡単に表現できませんが、本当にいい1日となりました。